

リスク コミュニケーション WG



リスクコミュニケーションのあり方を検討して、
試行し、提案していきます。

リスクコミュニケーションWG リーダー

熊崎 美枝子 Kumasaki Mieko
環境情報研究院 准教授

WG メンバー

南川 秀樹、竹田 宜人、中山 穰、本間 真佐人

リスクコミュニケーションWGとは

現在の社会では我々は様々なリスク中で暮らしており、それら一つ一つをゼロにするのは困難です。優先順位をつけながらリスクを低減する努力をする一方で、かつ選択し受け入れていきつつ活力ある社会を目指すことが必要です。選択し受け入れるための意思決定には判断材料としての情報がなければなりません。しかし、何がリスクか、どのようなリスクか、どのくらいリスクか、といった関係者が有するリスク情報の量と質は差がある上、情報の受け手の状況・価値観などによってリスクとして捉えられる内容やそれぞれの重み付けといった認識が変わり、一様ではないことが一般的です。そのような中で複数の関係者がかかわるリスクに対して協調して意思決定を行うためには、まずは係わる人たちの間で適切な情報共有が必須となります。当 WG では、適切な情報共有とはどのような状態か、その状態に至るためには何が必要か、について検討を行っています。

現在までの取組み

リスクコミュニケーションという概念や取組そのものは目新しいものではありません。様々な分野で『リスクコミュニケーション』と呼ばれる活動がなされておりマニュアルなどが整備されています。しかし、各分野でのリスク情報の伝え方とその目的には違いがあり、必ずしも統一されたものではありません。また、食品安全や原子力などと比較して爆発火災についてのリスクコミュニケーションは依然として整備されていない部分があります。横浜国立大学ではかねてより火災・爆発の防止について研究に取り組んでおり、当該分野について知見の蓄積があること、東日本大震災での経験から化学物質を取り扱う事業所における爆発・火災・漏洩に関するリスクコミュニケーションのニーズが高まっていることなどから、当 WG ではまず火災・爆発のリスクをいかに関係者にコミュニケーションしていくかということに目標を定めました。

これまで、リスクコミュニケーションについて約 13000 社を対象にしたアンケートで、爆発火災についての企業のリスクコミュニケーションのあり方について調査し解析を進めています。また、そもそも火災爆発のリスクとは何か、リスクの算定手法、リスク関連情報の整備、リスク情報の利用技術・共有化についてリスクコミュニケーションの現場調査や議論を通じて検討しており、その成果を用いてリスク管理技術およびリスクコミュニケーション能力もつ実務者を育成する体系的なカリキュラムを作成することに取り組んでおります。